

2024 年度通期決算説明会 質疑応答

(説明会概要)

- 日時： 2025 年 5 月 8 日(木)16:00~16:45
- 形式： OKI 本社よりオンライン配信
- 説明者・応答者： 代表取締役社長執行役員 森孝廣
代表取締役副社長執行役員 寺本禎治

(質問者 A)

- Q1：パブリックソリューションの FY24 実績に関して、営業利益の対公表値良化の背景について、サブセグメント別の状況も可能であれば説明頂きたい。
- A1(森)：商品構成ミックスによる良化や、原価良化によります。大規模案件における不測の事態に備えてコストを見込んでいましたが、大きなトラブルなくしっかりと対応致しました。サブセグメントの観点ではいずれも良化しており、特機システムにおける防衛案件についても、しっかりと利益を出しております。
- Q2：パブリックソリューションの FY25 予想として、特に社会インフラソリューションは大幅増収であり、営業減益も高水準と見えるが、手応えは如何か。
- A2(森)：増収予想の背景としては、既に受注している官公庁系案件の積上げや、ネットワーク系・電力系などの案件がございます。またご認識のとおり、高い利益水準を見込んでいますが、既に受注できている案件もあり、現段階で精査した内容となっております。
- Q3：EMS の FY25 として、前年度赤字から一転して 40 億円の営業利益を予想している背景・手応えを説明頂きたい。
- A3(森)：大きく三点あります。一点目は、市況について、楽観視はしておりませんが、半導体市場は今年度下期から緩やかな回復基調と考えております。二点目としては、投資のコントロールなどによる固定費の抑制、三点目としては、既存顧客中心から新規顧客開拓をしっかりとやります。施策として、部分的な受託から「まるごとサービス」へと対象範囲を拡大し、ユーザー単位のビジネス規模を大きく致します。40 億円の営業利益は、すべて増収に拠るものではなく、生産ロケーションの最適化による固定費の見直し効果も取り入れて進めて参ります。

(質問者 B)

- Q4：米国トランプ政権による関税影響は如何か。
- A4(森)：弊社は北米における販売・生産等のビジネスが少ないので直接的な影響は少ないと考えております。間接的な影響、弊社のお客様における影響は読み切れておりませんが、当該影響を受けにくいビジネスを拡大するなど、その都度必要な対策を打っていくのが肝要かと考えます。
- Q5：外国為替相場変動の影響および対策について説明願いたい。
- A5(寺本)：セグメント別の観点では、パブリックソリューションやエンタープライズソリューションでは US ドルの仕入れがあり、1 円の円高で年間数千万円程度の営業増益影響です。またコンポーネントプロダクツでは、ユーロ建て売上が一部・ドル建て仕入も一部ある構造となっておりますが、対策として為替予約を実行しており、影響はある程度抑制できている状況です。
- Q6：中日本高速道路社の ETC 障害による影響について説明願いたい。
- A6(森)：弊社起因による障害はございません。

(質問者 C)

- Q7：次期中計の考え方について可能な範囲で説明願いたい。
- A7(森)：現状のコア事業の立て直しに注力している比重を、海外展開等の将来事業への注力割合を増やしていく形で、ビジョン・戦略をまとめ上げて、今期中にはお示ししたいと考えております。
- Q8：将来事業とされている CFB や、グローバルサウスにおける事業展開について説明頂きたい。
- A8(森)：CFB は FY26 での事業化を進めております。共創ファンドを介した海外展開について、インドなどアジアにおける社会インフラ課題の解決に対しては、弊社がこれまで手掛けてきたソリューションは非常に魅力的であると考えており、10年くらいの長いスパンを見据えて進めて参ります。
- Q9：同意なき買収提案＝TOB、経営側主導による買収＝MBO など、資本市場の動向をどのように見ているか説明頂きたい。
- A9(森)：現在具体的な検討案件は無いが、将来に向けて企業価値・事業価値を高めるため、関連する検討・対策を進めて参ります。
- Q10：中国経済の動向から影響があればお聞きしたい。
- A10(森)：中国における弊社が手掛ける生産・販売について、近年は積極的には行っておりませんので、短期的な業績影響は無いと考えております。

(質問者 D)

- Q11：パブリックソリューションにおける FY24 大幅増益について、もう少し説明があると有難い。また、メディアでも取り上げられている防衛装備品の海外展開について、関連した説明が可能であればお願いしたい。
- A11(森)：売上の規模として、FY23 の 900 億円台の水準と、FY24 および FY25 の 1,300~1,400 億円の水準が大きな変化点となります。1,000 億円を切ると利益水準も厳しいが今期実績・来期予想の規模であれば、利益率も期待できる傾向とお考え頂ければと思います。防衛装備品の海外展開については、弊社のビジネス拡大にも繋がりますが、現時点では規模感についての詳細回答は控えます。

(質問者 E)

- Q12：説明のあった FY26 中の CFB 事業化について、可能であれば詳細を説明願いたい。
- A12(森)：既に説明会等で申し上げておりますが、パワー半導体・アナログ IC・フォトニクスの領域で、一部を実用化させる検討を進めております。こちらも 10 年程度の長いスパンを見据えて推進させ、パートナーリングも進捗しております。

以上

(注)本資料における予想、見通し等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、記載内容につきましては実際のやり取りに即しておりますが、理解しやすいように部分的に編集を加えております。